

教職に関する科目

卒業要件単位には認められません

教職:必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
教 職 論	教 職	1・2	選択	前期	2	池 木 清

◇講義目的◇ 学生が、教えられる立場から見た教師ではなく、職業人としての教師について具体的なイメージを獲得した上で、教職課程で積極的に学ぼうとする意欲を持つことを到達目標とする。

テーマは「職業人としての教師」。

講義概要としては、前半で、教職の意義、教員の役割、職務内容、服務規律などを概括的に教えた後に、現場の教員を招いて、生の声を聴く機会を持たせ、後半では、のちに教職課程で学ぶこととなる科目についての導入的内容を取り上げ、教職課程全般の見通しを持たせる。

◇授業内容◇

第 1 回	教員免許制度の概略と免許取得のための本学での履修について講義する。
第 2 回	近代国家における学校教育の成り立ちと公教育の教員としての使命について講義する。
第 3 回	現代日本における学校の制度的な位置づけと、その種類、設置者について講義する。
第 4 回	公立学校と国並びに地方の教育行政機関との関係、公立学校教員の採用について講義する。
第 5 回	私立学校と国並びに地方の行政機関との関係、私学教員の採用について講義する。
第 6 回	教職員の職名別の役割、職務内容、学校の校務分掌について講義する。
第 7 回	公立学校教員の研修体系、給与、転任、昇進、定年、服務規律、身分保障について講義する。
第 8 回	私立学校教員の勤務条件について、公立学校教員との差異を中心に講義する。
第 9 回	中・高校教員を招き、教職の実体験を語ってもらうと共に、学生に質疑を促し、彼らの進路選択に資する機会とする。
第 10 回	学校の教育課程の編成と教科指導の概略について講義する。
第 11 回	進路指導・生徒指導など教科指導以外の教育活動の概略について講義する。
第 12 回	学生の経てきた学校での経験等から今日的教育課題をいくつか提起させる。
第 13 回	前回提起された今日的教育課題を教員の立場でどう対処するかについて討議させる。
第 14 回	人類に共通する課題、わが国社会全体に関わる課題をいくつか提起させる。
第 15 回	前回提起された課題を分析検討するためには、何をしたらよいかなどを考えさせる。

◇成績評価◇ 試験80%、宿題等日ごろの取り組み20%。授業に出席し、講義を聴いて正しく理解(暗記ではない)することが基本なので、その点を試験で評価する。なお、試験の際にはノート、参考資料等の参照を認める。

◇使用教材◇ 参考書・参考資料等として、教育関係法令集、学習指導要領、文部科学白書、学校基本調査報告書、学校教員統計調査報告書、拙著『男女共同参画社会と教育』など。

◇特記事項◇ 中学・高校の教員免許状取得を目指す学生は、免許教科に関係なく、教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教職の意義等に関する科目」として共通の必修科目なので、1年生で直ちに履修すること。なお、「学校の制度」も同時に履修する必要がある。

教職:必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
教育課程論	教職	1・2	選択	後期	2	池木清

◇講義目的◇ 子どもが学校で何を学ぶかについて、どのような主体がどの程度に関与して決まっているのか、その仕組みを理解させると共に、教育課程の基準たる学習指導要領も時代の変化に応じて変遷してきたのだから、将来の教師としては、今後作成されるであろう学習指導要領にも適時適切に対応する必要のある点を認識させることを到達目標とする。

テーマは「教育課程の決まり方の仕組みと概要を知る」。

授業の概要としては、最初の数回で、教育課程の決まり方の仕組みについて講義し、続いて、教育課程の変遷をたどり、現在実施されている学習指導要領については、批判的見解やそれへの当局の対応も含めて明らかにし、更に、教育課程編成の際の留意事項や必修科目未履修問題に見られるような学習指導要領と学校現場との乖離の実情にも触れ、最後の数回は、平成20年1月の中央教育審議会答申の内容や新学習指導要領の総則等について講義する。

◇授業内容◇

第1回	近代学校で子どもに何を学ばせるか、その内容を定める必要性や社会的背景について講義する。
第2回	現代日本の学校の教育課程の基準となっている学習指導要領の法的性格に関する行政解釈や判例について講義する。
第3回	国、都道府県、市町村、学校の教育課程に関する権限関係について講義する。
第4回	文部科学省の教科調査官や教育委員会の指導主事の職務と実際の学校への影響力等について講義する。
第5回	中学校の教育課程の変遷について講義する。
第6回	高等学校の卒業要件単位数の変遷、必修教科・科目を含む教育課程の変遷について講義する。
第7回	教育課程の変遷の背後にある経済的、社会的変化について講義する。
第8回	現在実施されている学習指導要領の基本的な路線について講義する。
第9回	現在実施されている学習指導要領と、これに対する「学力低下」批判や当局の対応などについて講義する。
第10回	学習指導要領と教科書検定の関係について講義する。
第11回	中学校、高等学校で教育課程を編成する際に留意すべき事項など、学校で教育課程を実際に編成するプロセスについて講義する。
第12回	高等学校の必修科目未履修問題、学習指導要領での選択範囲の拡大が個々の生徒のそれに直結しない問題など、現状の問題点やその社会的背景について講義する。
第13回	新学習指導要領の作成の基本になった2008年1月の中央教育審議会答申の内容について講義する。
第14回	新学習指導要領について、中学校のものはもちろんのこと、小学校のそれも加えて、それぞれの総則を中心に講義する。
第15回	新学習指導要領について、高等学校の総則を中心に講義する。

◇成績評価◇ 試験90%、宿題等日ごとの取り組み10%。授業に出席し、講義を聴いて正しく理解(暗記ではない)することが基本なので、その点を試験で評価する。なお、試験の際にはノート、参考資料等の参照を認める。

◇使用教材◇ 学生に必携させる教材としては、中学校新学習指導要領。高等学校新学習指導要領。参考書・参考資料等としては、小学校新学習指導要領、教育関係法令集、拙著『男女共同参画社会と教育』など。

◇特記事項◇ 中学・高校の教員免許状取得を目指す学生は、免許教科に関係なく、教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育課程及び指導法に関する科目」として共通の必修科目なので、1年生で直ちに履修すること。なお、1年前期に「学校の制度」と「教職論」を先行して履修しておくこと。

教職：選択必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
国語科教育法 I	教 職	2・3・4	選択	前期	2	服 部 一 枝

◇講義目的◇ 本科目の目的は、国語科教育に関する基礎的な知識・技能を理論的に追求し、国語科学習指導のあり方について各自の考えを深めつつ、国語科教師に求められる基本的な知識や考え方を身につけることにある。

国語科は、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成する教科である、と同時にすべての教科の基礎となるものである。そのため、自分の趣味や思いつきで授業をしてしまう教員にならないために、国語科教育についての基本的な知識をしっかりと身につけたい。

具体的には、国語という教科の存在意義、国語科教育の目標と内容などを概説した後、現行の学習指導要領、新学習指導要領、及び国語の成立や歴史的変遷などの基礎的知識を学習する。これらを理解した上で、国語科教育研究Bでは、国語教育の現場での実践力に通ずる教材研究、指導案の作成を行う。

◇授業内容◇

第 1 回	授業ガイダンス 国語科教育法 I の目標
第 2 回	国語科教育の意義 言葉の魅力について
第 3 回	国語科教育の目標及び内容 言語能力の定義と指導方法
第 4 回	国語科学習指導要領の変遷と国語科を取り巻く昨今の状況
第 5 回	学習指導要領の理解 中学校「読むこと」 説明的文章の指導
第 6 回	学習指導要領の理解 高等学校「読むこと」 説明的文章の指導
第 7 回	学習指導要領の理解 中学校「読むこと」 文学的文章の指導
第 8 回	学習指導要領の理解 高等学校「読むこと」 文学的文章の指導
第 9 回	学習指導要領の理解 中学校「読むこと」 古典の指導
第 10 回	学習指導要領の理解 高等学校「読むこと」 古典の指導
第 11 回	学習指導要領の理解 中学校「書くこと」の指導
第 12 回	学習指導要領の理解 高等学校「書くこと」の指導
第 13 回	学習指導要領の理解 中学校「話すこと・聞くこと」の指導
第 14 回	学習指導要領の理解 高等学校「話すこと・聞くこと」の指導
第 15 回	総括 後期の授業内容(具体的な教材分析と指導案作成)について

◇成績評価◇ 出席日数、授業参加姿勢、提出物の評価による。毎回の出席を提出物で採る。講義内容をもとにしたレポートを最終日に提出してもらう。

◇使用教材◇ テキスト 全国大学国語教育学会編『新訂中学校・高等学校国語科教育研究』学芸図書
文科省『中学校学習指導要領解説・国語編』東洋館出版
文科省『高等学校学習指導要領解説・国語編』東洋館出版

◇特記事項◇ 中学校・高等学校の国語の教員免許状を取得しようとする学生が対象となる科目である。しっかりとした目的意識を持って授業に参加することが重要である。

教職：選択必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
国語科教育法Ⅱ	教 職	2・3・4	選択	後期	2	服 部 一 枝

◇講義目的◇ 本科目においては、「国語科教育法Ⅰ」で学習した基礎的な知識に基づいて、実際に国語教育の現場で使用されている教科書教材の分析・研究を試み、学習指導案作成まで行う。更に、できるだけ国語科教育の実践力が身につくよう、国語科教材の授業での扱い方や副教材などを討議したり、国語便覧を用いた基礎知識の定着なども図っていく。

具体的には、国語科の指導領域とされる「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の3領域1事項の代表的な教材を分析することによって、それぞれの領域において育成すべき言語能力を実感的に感じ取り、その指導方法を学習指導案にまとめる力を育成する。

◇授業内容◇

第 1 回	授業ガイダンス 「国語科教育法Ⅱ」の目標
第 2 回	教材研究の実践についての説明(グループによる演習発表形式)
第 3 回	教科書教材の分析方法Ⅰ 中学校教科書の「書くこと」教材
第 4 回	教科書教材の分析方法Ⅱ 高等学校教科書の「書くこと」教材
第 5 回	教科書教材の分析方法Ⅲ 中学校教科書の「話すこと・聞くこと」教材
第 6 回	教科書教材の分析方法Ⅳ 高等学校教科書の「話すこと・聞くこと」教材
第 7 回	教科書教材の分析方法Ⅴ 中学校教科書の「読むこと」教材
第 8 回	教科書教材の分析方法Ⅵ 高等学校教科書の「読むこと」教材
第 9 回	教科書教材の分析方法Ⅶ 「国語便覧」を用いて(1)
第 10 回	教科書教材の分析方法Ⅷ 「国語便覧」を用いて(2)
第 11 回	教科書教材の分析の実際 各自選択した教科書教材を用いて
第 12 回	指導案作成の方法Ⅰ 中学校教科書教材をもとにして作成
第 13 回	指導案作成の方法Ⅱ 高等学校教科書教材をもとにして作成
第 14 回	指導案作成の実際 *各自選択した教科書教材をもとにして作成
第 15 回	総括 指導案をもとに模擬授業の方法を考察

◇成績評価◇ 出席日数、授業参加姿勢(演習発表)、提出物の評価による。毎回の出席を提出物で採る。レポートは、実際の教材を分析し指導案を書くものとし、最終日に提出してもらう。

◇使用教材◇
 ・文科省『中学校学習指導要領解説・国語編』東洋館出版
 ・文科省『高等学校学習指導要領解説・国語編』東洋館出版
 *各自選択の教科書は、中学校・高等学校で使用したものでよい。

◇特記事項◇ 中学校・高等学校の国語の教員免許状を取得しようとする学生が対象となる科目である。教材の分析・研究の発表への積極的な参加を強く求める。

教職：選択必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
社会科・公民科教育法Ⅰ	教 職	2・3・4	選択	前期	2	揚村 洋一郎

- ◇講義目的◇ 本講座は中学校「社会科」と高等学校「公民科」に関する教科教育法を2単位で実施するものである。内容は、主に中学校の「社会科」を学習指導要領の中核に置き考察していく。授業は学習指導要領の読み方や内容を理解し、単元計画を具現化していく実践的な内容とする。単元学習では、学生の代表者に単位時間の模擬授業を実践させる。その際、具体的な授業実践上の留意点を学習指導や生徒指導上の観点から考察し、この研究過程で学習指導要領への理解を深め教育実習に備えられるものとする。なお、本講座は前期の教科教育法の基礎的理論編・解説編と位置付ける。

◇授業内容◇

第 1 回	社会科教師として一望ましい教師像・心構え
第 2 回	社会科教育論—授業で取り扱う人権尊重教育
第 3 回	社会科教育の今日的課題—生徒を引きつける授業
第 4 回	中学校学習指導要領の解説(1) —目標の押さえ方、内容構成
第 5 回	中学校学習指導要領の解説(2) —目標と内容の関係、内容の取り扱いと配慮事項、指導上の留意点
第 6 回	中学校学習指導要領の解説(3) —社会科における指導技術
第 7 回	社会科における授業研究・単元計画の作成—指導時間・内容設定
第 8 回	社会科における授業研究・基本的な資料選定の視点 —教科書・副教材・資料の検討と使い方、教材研究の在り方
第 9 回	授業研究・学習活動の構想—生徒の学習活動と生徒理解
第 10 回	授業研究・学習指導の展開と板書の研究 —考える板書と知的定着を促す板書
第 11 回	授業研究・効果的な授業の進め方—確かな学力
第 12 回	授業研究・指導計画案の作成—指導案作成の手順
第 13 回	授業研究・単位時間における指導案の作成
第 14 回	授業研究・模擬授業—授業を見る視点
第 15 回	授業研究・模擬授業—実践上の留意点

- ◇成績評価◇ 出席状況と提出物や定期試験などによる総合評価

- ◇使用教材◇ 文部科学省「中学校学習指導要領」解説—社会編—（最新のものを使用する）
中学校教科書(社会)

- ◇特記事項◇ 講義は出欠を重視。教育実習で役立つ内容を中心に実施する。教員採用選考対策も行う。提出物は期日厳守で提出させる。

教職：選択必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
社会科・公民科教育法Ⅱ	教 職	2・3・4	選択	後期	2	揚村 洋一郎

◇講義目的◇ 本講座は、中学校「社会科」と高等学校「公民科」に関する教科教育法を2単位で実施するものである。内容は、主に高校の「公民科」の現代社会分野、倫理分野、政治経済分野を基本として、教科の特色を学習指導要領中核において考察していく。これらの授業は学習指導要領の読み方を理解し、実際の学習計画を具現化し実践的な内容とする。単元計画については受講者全員に提出させ、学生の代表者に単位時間の模擬授業を実践させる。その際、具体的な授業実践上の留意点を学習指導上や生徒指導上の観点から考察し、この研究過程で学習指導要領への理解を深め、教育実習に備えられるものとする。本講座は前期での教科教育法の基礎的理論編・解説編を踏まえて実践的教育論を展開する。

◇授業内容◇

第 1 回	現代社会科の成立と教育行政—教員採用選考とその対策
第 2 回	現代社会・政治経済授業論
第 3 回	社会科教育の今日的課題と教員としての姿勢
第 4 回	社会高等学校・学習指導要領の解説(1) 学習指導要領の特色—目標の押さえ方と内容構成
第 5 回	社会高等学校・学習指導要領の解説(2) 学習指導要領の特色—内容の取り扱いと配慮事項
第 6 回	社会科高等学校・学習指導要領の解説(3)—指導上の留意点
第 7 回	社会科・授業研究(授業展開に関する諸注意、単元学習計画の作成) —年間指導計画の作成と指導時間の決め方・内容設定・作成手順等
第 8 回	授業研究(基本的な資料選定の視点) —教科書資料の検討及び扱い方、副教材の選定と使い方
第 9 回	授業研究(学習活動)—生徒の学習活動と生徒理解
第 10 回	授業研究(教科指導の実際)—教科・現代社会について
第 11 回	授業研究(教科指導の実際)—教科・倫理について
第 12 回	授業研究(教科指導の実際)—教科・政治経済について
第 13 回	授業研究(指導計画案・単位時間の指導案)の作成・提出—公民科としての立案
第 14 回	授業研究(模擬授業)—授業を見る視点
第 15 回	授業研究(模擬授業)—実践上の留意点

◇成績評価◇ 出席状況と提出物や定期試験及びレポートなどによる総合評価

◇使用教材◇ 文部科学省「高等学校学習指導要領」解説-公民編-(最新のものを使用する)
高等学校教科書(公民)

◇特記事項◇ 教育実習で役立つ内容を中心に実施する。提出物は期日厳守で提出させる。

教職:必修【共通(中一種のみ)】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
道徳教育の理論と方法	教 職	2・3・4	選択	前期	2	古 賀 毅

◇講義目的◇ 人間社会における道徳の重要性と児童期および青年期における道徳性の育成、学校教育における道徳性育成のための教育等について多面的に考察し、教育者としての課題を明らかにする。学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じておこなわれるものであり、教育者を志す者はみなその重要性和実際の指導理念および指導スキルを習得しておかなければならない。当科目では、学習指導要領を中心に、道徳の指導計画の立案や各教科等との関連性の確保、さらには「道徳の時間」の設計などについて講義する。

◇授業内容◇

第 1 回	はじめに 道徳教育を学ぶ
第 2 回	道徳性の発達とその支援(1) 児童期・青年期における道徳性の発達をめぐる諸学説
第 3 回	道徳性の発達とその支援(2) 小学校および中・高等学校における道徳教育の特色と課題
第 4 回	道徳教育の計画 現行指導要領における道徳教育の全体像と全体計画の立案
第 5 回	道徳の内容(1):主として自分自身に関する事
第 6 回	道徳の内容(2):主として他の人とのかかわりに関すること
第 7 回	道徳の内容(3):主として自然や崇高なもののかかわりに関すること
第 8 回	道徳の内容(4):主として集団や社会とのかかわりに関すること
第 9 回	道徳の時間の構想 道徳の時間の位置づけとその特徴、活用の仕方
第 10 回	道徳の時間の実践(1) 学習テーマの類別と立案
第 11 回	道徳の時間の実践(2) 中学校の「道徳の時間」学習指導案の作成
第 12 回	道徳の時間の実践(3) 受講生による指導計画の発表と討議
第 13 回	社会変化と道徳教育(1):IT化と道徳 IT化の進行がもたらす青少年の道徳的混乱と対応
第 14 回	社会変化と道徳教育(2):グローバル化と道徳 共生と寛容へ向けた道徳の再構想
第 15 回	まとめ

◇成績評価◇ 期末のレポート(約 60%)、授業中に取り組む「道徳の時間」の指導計画(約 40%)によって評定する。

◇使用教材◇ 文部科学省編『中学校学習指導要領解説 道徳編』(日本文教出版)
文部科学省編『心のノート 中学生編』(廣済堂あかつき)

◇特記事項◇ 教育を学ぶにあたっては、個別の知識を得ることだけでなく、問題意識をもつこと、その問題を掘り下げ多面的に考察しようとする姿勢が何より求められる。真摯な態度での受講を望む

教職:必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
特別活動の理論と方法	教 職	2・3・4	選択	後期	2	池 沢 政 子

◇講義目的◇

講義の到達目標

- 1.特別活動は各教科と並び重要な教育課程の一領域であることを理解する。
- 2.教師は、生徒の自発的・自治的な活動を促すように指導するものであることを理解する。
- 3.生徒会・学校行事・学級会活動・HR 活動あるいは部活動などの集団活動を通して、豊かな社会性が育まれるような指導方法を学ぶ。

テーマ「社会性」と「社会的自立」の基礎の育成。

講義概要 学習指導要領における特別活動の理念や目標について解説する。次に特別活動の内容を詳しく説明・検討し、学校教育における特別活動が「人間形成」に果たす役割を考えてみる。集団活動の指導方法として、学校内でできること、地域社会や家庭と連携してできること等を今後の展望として言及する。

◇授業内容◇

第 1 回	ガイダンス (1)授業の進め方について 特別活動論概説 (1)特別活動論への導入
第 2 回	特別活動論概説 (2)特別活動の歴史の変遷 (3)学習指導要領における位置づけ
第 3 回	特別活動論概説 (4)特別活動の領域 特別活動の理念・目標・内容
第 4 回	学級活動の計画と指導 ホームルーム活動の教育的意義
第 5 回	生徒会活動の内容とねらい
第 6 回	学校行事の内容とねらい
第 7 回	中学校部活動について 高等学校部活動について
第 8 回	特別活動と「各教科」、「総合」、「道徳」との関わり
第 9 回	集団活動とその指導 生徒の自発的・自治的活動の促進とその指導 (1)ボランティア活動、その他
第 10 回	特別活動と人間形成 (1)人間形成を目指した指導
第 11 回	特別活動と人間形成 (2)コミュニケーション能力の育成 (3)望ましい人間関係の構築
第 12 回	特別活動と人間形成 (4)アイデンティティの確立と共生 (5)社会性の育成
第 13 回	特別活動の指導方法に関する課題と将来展望 (1)特別活動の課題 (2)特別活動と地域社会との関わり
第 14 回	特別活動の指導方法に関する課題と将来展望 (3)「これからの特別活動」展望
第 15 回	まとめ

◇成績評価◇

授業への出席状況、授業態度、レポート、試験等を総合して行う。

◇使用教材◇

テキスト 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 海文堂
文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別活動編 ぎょうせい
参考書・参考資料等 山口満編『子どもの「社会的自立」の基礎を培う』教育開発研究所
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
本間啓二・佐藤充彦 教職研修 改定『特別活動の研究』アイオーエム
担当教員の調査資料などをプリントして配布する。その他、必要に応じて指示する。

◇特記事項◇

ディスカッションの方法、アサーションの方法、カウンセリングの仕方など実践指導をするので、あらかじめ配布した資料を読み、授業の準備をすること。

教職:必修【共通】

科目名	科目区分	開講年次	必・選	開講期	単位数	担当教員名
生徒指導論（進路指導論を含む）	教 職	2・3・4	選択	後期	2	複 数 教 員

◇講義目的◇ 「生徒指導」は、学校が教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、一人一人の生徒の個性の伸長を援助し、社会性の発達を促し、自己実現を助ける営みである。しかし、実際に学校と教員が取り組む生徒指導では、暴力やいじめ、不登校などといった、様々な問題の解決に多くの時間とエネルギーを費やされる状況が拡大している。

この授業では、生徒指導の在り方・考え方を探究しながら、今日の中学生・高校生たちの実態、それを取りまく環境状況から、生徒指導・進路指導の目的と課題を改めて考察するとともに、生徒指導と進路指導の基礎理論・指導方法についての知識・理解を深め、教員としての実践的態度を養うことを目標とする。

従って、授業にあたっては、出来るだけ実際に教育現場で起きた事例を取り上げながら、生徒指導・進路指導にどのように取り組んで行くべきか、考えていきたい。

◇授業内容◇

第 1 回	オリエンテーション (授業の目的と内容、進め方・参考文献、成績評価、授業予定について)
第 2 回	生徒指導の理念と現実 (生徒指導の基本と今後の課題)
第 3 回	学校教育における生徒指導の位置づけ (教育課程と生徒指導、生活指導について)
第 4 回	生徒指導と生徒理解 (生徒理解の考え方とその内容について)
第 5 回	生徒指導の方法 (生徒指導と人間関係、集団指導と個別指導、校則・決まりと生徒指導)
第 6 回	生徒指導と教育相談との関係
第 7 回	学校不適応と問題行動 (適応と社会規範意識、問題行動、非行、いじめ、不登校、薬物乱用等)
第 8 回	いじめ いじめの発生状況、要因・背景・いじめへの対応、防止と指導
第 9 回	不登校 不登校の発生状況、背景・要因・不登校への対応、指導と援助
第 10 回	生徒指導と学校経営 学校の指導体制と生徒指導組織、生徒指導と学年・学級経営、懲戒と体罰、家庭、地域社会、関係機関との連携
第 11 回	進路指導の現状と課題 進路指導のあゆみ、進路指導の理念と現実
第 12 回	学校における進路指導 学習指導要領と進路指導、進路指導の基本的な考え方と課題
第 13 回	進路指導の内容と方法 進路指導の内容、指導計画、指導体制
第 14 回	進路指導の諸理論、キャリア教育
第 15 回	教員の自覚と生徒指導について (まとめ)

◇成績評価◇ 平常点(出席状況・受講態度)と授業中の提出物等の評価とで総合評価する。

◇使用教材◇ 特定のテキストは使用しない。授業時に資料を配付するほか、適宜参考文献を紹介する。

◇特記事項◇ 教員免許状の取得に必要な科目である。将来、教員として、生徒指導・進路指導に責任を負う立場であることを意識して、自らの人間形成に努めていこうとする学生の受講を望む。